

令和 4 年度第 2 回学校関係者評価委員会意見取りまとめ

1. 教育理念について、1年生のオリエンテーションだけで理解することは難しいのではないか。その都度学年ごとに理解できるように働きかけるとも必要である。適宜理念や目標を思い出せるような場が必要である。
 - 各教室に教育理念を掲示し、学生が常に目を向けられるようにした。また、カリキュラム改正で AP.DP.CP を設定し、教育理念を踏まえ、どのような力を身につければ学生の学修成果の目標になるのか周知している。併せて年度初めにクラス目標も設定している。
2. 面談室の問題について、スペースの問題は難しい。他のスペースの活用について考えて行くことが重要である。
 - 面談室等については、増やすことは困難であるが空いている部屋を活用して学生指導は実施しており今後も実施していく。
 - また学生支援として、スクールカンセラーによる支援もしており計画的に進めている。
3. 令和 3 年度の振り返りについて学校側からはどうか。
 - 現段階で令和 4 年度もすでに進んでる部分はあると思う。自分分析や SWOT も必要か。新たな計画や 3 年を振り返っての中期目標も必要ではないか。
 - 評価項目でやはり研究への取り組みが低いので改善していきたい。毎年低い結果になっているので、現状から課題分析し、計画的に進めたい。
4. 評価項目で、IV教授、V経営では「解釈の違い」とあるが適正な評価をするために同一目線は必要でないか。
 - マニアルを参照し、詳細は周知している。個人により、学校評価ではなく個人の自己評価となってしまっている。引き続き周知していく。